

# 私の想い

「多様な育ちと、安心して暮らせる町を信じて」



地域おこし協力隊  
小山 潤也 氏

地域おこし協力隊として、群馬県から大崎町に来て2年が過ぎました。あつと言う間と感じられるのは、地域で暮らすことと、日々の活動が充実しているからだと感じます。先日も庭先で作業をしていると、近所の方が「これ、夕ごはんに食べなさい」と焼いたさんまとビールを持ってきてくださいました。「あ。地域で暮らしていいんだ。」と勝手に実感し、嬉しくなった瞬間でした。

私の活動は、主に大崎中学校と、旧大崎幼稚園をお借りしたオーエン（オーエン）という学習支援と体験活動の場をつくる活動です。地域おこし協力隊が学校で何をするのか。とよく聞かれます。地域おこし協力隊のイメージは、観光や、地域の活性化、農山漁村での支援などが色濃くあります。しかし、地域の子どもたち。すなわち、大崎町の将来を担う一人ひとりの健やかな育ち、多様な学びを保障することは、究極の地域おこしだと思います。100人の子どもがいれば、100通りの育ちがあります。学校の中で伸びる子もいれば、地域や社会、多様な体験の中で伸びる子もいます。教科の勉強だけでなく、多様な学びと育ちという視点から、地域おこし協力隊として活動しています。また、オーエン（オーエン）は月2回程

度、学習支援と様々な体験活動を、地域の方やNPOと連携、協力して実施していきたいと思っています。大崎町は12年連続リサイクル率日本一という、全国に誇れる記録を持っています。また、「第2回ジャパンSDGsアワード」では唯一自治体として受賞をしました。これは、町民一人ひとりの賜です。反面、「歳をとってきて分る別もゴミ出しも厳しい。リサイクル率は日本一だけど、ゴミのポイ捨てが…」という声を耳にします。この声は一部にすぎませんが、全ての人が安心して暮らしていくために、大崎町SDGs推進宣言を元に、理念でもある「誰一人取り残さない」を実現できるように、さらなる前進が必要と感じます。

## 編集後記

若葉が薫る頃となりましたが、皆様方にはお元気にお過ごしのことと思います。

私たち議員も4年の任期を終え、5月からの令和元年からは新しい議会、新体制による広報委員での編集となります。これからも読者にとつて読み易い広報紙を目指し誠心誠意努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。

これまでのご愛読、誠にありがとうございました。  
(児玉孝徳)



議会広報聴聞委員会

委員長 吉原信雄 副委員長 児玉孝徳  
委員 中山美幸 委員 宮本昭一  
委員 神崎文男 委員 稲留光晴

(H31・4・30現在)

発行責任者 大崎町議会議長 宮本 昭一